

大祓詞

高天原に神留り坐す 皇親神漏岐 神漏美の命以ちて 八百萬神等を神集へに集へ賜ひ 神議りに議り賜ひて 我が皇御孫命は 豊葦原水穗國を安國と平けく知ろし食せと 事依さし奉りき 此く依さし奉りし國中に 荒振る神等をば 神問はしに問はし賜ひ 神掃ひに掃ひ賜ひて 語問ひし磐根 樹根立 草の片葉をも語止めて 天の磐座放ち 天の八重雲を伊頭の千別きに千別きて 天降し依さし奉りき 此く依さし奉りし四方の國中と 大倭日高見國を安國と定め奉りて 下つ磐根に宮柱太敷き立て 高天原に千木高知りて 皇御孫命の瑞の御殿仕へ奉りて 天の御蔭 日の御蔭と隠り坐して 安國と平けく知ろし食さむ國中に成り出でむ 天の益人等が 過ち犯しけむ 種種の罪事は 天つ罪 國つ罪 許許太久の罪出でむ 此く出でば 天つ宮事以ちて 天つ金木を本打ち切り 末打ち断ちて 千座の置座に置き足らはして 天つ菅麻を本刈り断ち 末刈り切りて 八針に取り辟きて 天つ祝詞の太祝詞事を宣れ 此く宣らば 天つ神は 天の磐戸を押し披きて 天

の八重雲を伊頭の千別きに千別きて 聞こし食さむ 國つ神は 高山の末 短山の末に上り坐して 高山の伊褒理 短山の伊褒理を搔き別けて聞こし食さむ 此く聞こし食してば 罪と云う罪は在らじと 科戸の風の天の八重雲を吹き放つ事の如く 朝の御霧 夕の御霧を 朝風 夕風の吹き拂ふ事の如く 大海原に居る大船を 舳解き放ち 艫解き放ちて 大海原に押し放つ事の如く 木が本を 焼鎌の敏鎌以ちて 打ち掃ふ事の如く 遺る罪は在らじと 祓へ給ひ清め給ふ事を 高山の末 短山の末より 佐久那太理に落ち多岐つ速川の瀬に坐す 瀬織津比売と云ふ神 大海原に持ち出でなむ 此く持ち出で往なば 荒潮の潮の八百道の八潮道の潮の八百會に坐す 速開都比売と云ふ神 持ち加加呑みてむ 此く加加呑みてば 氣吹戸に坐す 氣吹戸主と伝ふ神 根國 底國に氣吹き放ちてむ 此く氣吹き放ちてば 根國 底國に坐す 速須良比売と伝ふ神 持ち佐須良ひ失ひてむ 此く佐須良ひ失ひてば 罪と云ふ罪は在らじと 祓へ給ひ清め給ふ事を 天つ神 國つ神 八百萬神等共に 聞こし食せと白す

# あなたを幸せにする大祓詞

大祓詞は神職だけの祝詞ではない

小野善一郎先生著

「大祓詞」とは、大祓のときに神前で読み上げる祝詞です。平安時代には、毎年六月と十二月の晦日（月の最終日）に大祓が行われ、親王をはじめ、大臣以下の百官の男女を朱雀門の前の広場に集めて、半年の間における罪や穢れを祓い清めました。この大祓は、今日でも宮中や全国の神社で六月と十二月の最終日に行われています。

「大祓詞」は、古くは中臣祓、中臣祓詞、中臣祭文とも呼ばれました。それは、祝詞の宣読者が中臣氏であったからです。「大祓詞」の文献上の初見は、『日本書記』の「乃ち天児屋命をして、其の解除の太祝詞を掌りて宣らしむ」と言われています。なお、『古事記』には「天児屋命、太祝詞言袴き白して」とありますが、祓え（解除）の祝詞と記載されていないので、「大祓詞」の初見とするのは難しく、一般には祝福の祝詞と考えられています。しかし、中臣氏の先祖であります天児屋命が宣読していることから、「大祓詞」と推定することも可能ではないかと考えられます。この説を主張しているのが本居宣長です。一方、『古語拾遺』（八〇七年）には「此の天罪は、今の中臣の祓詞なり」とあります。

『古事記』の編纂は七二二年、『日本書紀』は七二〇年ですから、「大祓詞」は少なくとも千三百年前から祭りの場で唱えられていて、それは今日でも全く変わることなく続けられています。「大祓詞」が千三百年もの長いあいだ伝えられ、いつの時代にあっても私たち日本人の抛り所であったということは、先にも述べましたが、その信仰が私たちの日本人の根本的人間観であり、日本民族の「いのち」そのものであるからです。

「本文より引用」

「大祓詞」は、利己的な自分を捨て去って、まさにその先祖の天つ神の御心と一つになる祝詞です。これほど重大な祝詞はないと思います。これは天つ神の悲願の祝詞であり、すべての人を幸せにする無限のご慈愛の大御心なのであります。

私たちの本性は、天つ神と全く違うない神性の心です。つまり、私たちはすべての人が、大宇宙の真理である天つ神の御心をすでに心の中に宿しているのです。私たちの自我の異心を祓つたら何もなくなり無になることは決してありません。祓つた奥に天照大御神、天つ神、天之御中主神がご鎮座されているのです。これが古い伊勢の信仰でもあります。そして、その実在を心から信じて、「大祓詞」を奏上してきたのが私たちの先祖です。

「あとがきより引用」

## あなたを幸せにする大祓詞

青林堂 価格三、〇〇〇＋税



【著者】 小野善一郎先生  
福島県に生まれる。國學院大学大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期終了。湯島天満宮権禰宜。博士（神道学）神社本庁の外郭団体である日本文化興隆財団などで神道関連講座の講師を務める。  
著書『伊勢神道思想の形成』、『古事記のこころ』、『日本を元気にする古事記の「こころ」』、『新嘗のこころ』など。

アハハ合同会社代表三浦亜子は小野善一郎先生の「日本国民の半数が毎日大祓詞を奏上する社会の実現」に賛同しております。神棚に天日海塩をお供えて是非「大祓詞」を奏上してください。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

